

令和7年度1学期始業式 校長式辞

おはようございます。本日、令和7年度が幕を開けました。明日入学する1年生を加えて、今年度の与論高校は生徒数131名でスタートすることになります。新年度の新しい出会いを大切にして、学年の垣根を越え、切磋琢磨するお互いの姿をリスペクトしあえるような集団に成長してほしいと思います。

昨年度の始業式で私は、皆さんに二点のことを心がけてほしいと話しました。一つは「脳に汗をかけ」ということ。もう一つは「ルーツに誇りを持て」ということです。昨年度一年間、様々な機会と話したり、書いたりしてきたので、もう聞き飽きたという人もいるかもしれません。しかし、これらのことは、ここ与論で高校生活を送る皆さんにとって必須の行動規範だと私は考えています。

「脳に汗をかく」ということは、思考力・判断力・表現力・主体性が重視される学びの中でも、「暗記」や「演習」を通した基礎学力・知識の定着は絶対に疎かにしてはならないということです。脳が汗だくでクタクタになるくらいの「暗記」や「演習」に耐えてきたからこそ、思考力・判断力・表現力・主体性のスタミナがついているということを忘れてはなりません。

「ルーツに誇りを持て」ということは、今なぜ自分がここ与論にいるのかを考えることです。どういう経緯で自分がここにたどり着いたのか。自分がここにいる意味は何なのか。こういうことを追求することが自分の存在意義を明確にすることになります。探究活動の中で、「鳩の湖の水はなぜ枯れないのか」を探ることも、「与論の教職員住宅の老朽化」の考察と自分たちが受ける教育の質の担保とを結びつけることも、与論のルーツを意識した立派なテーマ設定です。このように、与論だからできること、与論でしかできないことをとことん追求し、これらを何らかの形で社会に還元できれば、皆さんの存在価値は暴上がりするのです。与論にいてよかったと感じられる自分に自信と誇りを持つようになる。皆さんにはそうなってほしいのです。

これらのことに加えて、今日は皆さんに次の言葉を贈りたいと思います。英語です。

"Ask not what your country can do for you.
Ask what you can do for your country."

誰の言葉か知っている人はいますか。これは、アメリカ合衆国第35代大統領ジョン・F・ケネディーが1961年の就任演説で語った言葉です。「国があなたに何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何ができるかを考えよう」ということです。60年以上前の言葉ですが、普遍性のある言葉は時代を超えて力強く響きます。コスパ・タイパばかりに囚われ、いかにして労力を少なく得をするかしか考えない、何でもしてもらうことが当たり前という感覚の消費者マインドにどっぷり浸かってしまった今の日本人にぶつけたい言葉です。国をよくするためには、一人一人の国民が主体的に自分にできることを見つけ、それを実行する。一人一人が輝いた存在であるからこそ、国全体としても繁栄するのだということです。

私はこのケネディー大統領の言葉をそのまま学校に当てはめたいのです。
つまり、

"Ask not what your school can do for you.

Ask what you can do for your school."

ということです。「学校が君に何をしてくれるかではなく、君が学校のために何ができるかを考えよう」ということです。与論高校がよい学校になるためには、学校が何をしてくれるのかを待つのではなく、得意・不得意、夢や希望、そして個性もそれぞれ異なる皆さん一人一人が、学業には真正面から真摯に取り組むのはもちろんのこと、与論だからできること、与論でしかできないことを追求し、自分の存在価値を高めることが必要なのです。そして、そういう生徒集団として与論高校全体が輝く。卒業後は、与論にルーツを持つ人間として、再び島のための貢献を考える。こういう人が増えないと、日本中にある与論のような少子高齢化が進む地域は再生のしようがありません。与論のことを考えるのは日本全体のことを考えるのと同レベルで重要なことなのです。今年の卒業生及び浪人生は、それぞれが自分が与論にいることの独自性をフルに活かし、「島だち」していきしました。今度は皆さんの番です。どんなふうに皆さんが自分をプロデュースするか楽しみに見ていきたいと思います。時には声をかけますので、途中経過を共有させてください。

さあ、明日から新入生が入ってきます。この島の最高学府の先輩として恥じない言動を皆さんには期待しています。凜とした態度で、与論高校生はどうあるべきかを背中で見せるような先輩でいてください。以上で式辞といたします。